

乙女高原が好き！ 1003号

グリーンロッジが閉まっているのは寂しいけれど・・・ 2010の夏も、多くの方が乙女高原へ

「乙女高原が好き!」前号でご報告しました通り、今年の夏、乙女高原グリーンロッジは閉まったままでした。ファンクラブの活動があるときには鍵をお借りして、万が一の場合に備えましたが、乙女高原に行っても、ロッジのまわりは草ぼうぼうで、出迎えてくれる人が誰もいないというのは、なんとも寂しいものです。また、ロッジ休止にともない、5年間続いた「夏休みの乙女高原案内人による自主活動」もお休みしました。

その代わりに、「乙女高原を歩こう」というイベントを7月に1回、8月に1回開催しました。また、遊歩道づくりで使用する木の杭を作るイベントも開催しました。さらに、山梨市牧丘町内の全小学校から乙女高原での自然教室のガイドを依頼され、案内人の皆さんに参画していただいたり、諸団体からガイド依頼があった場合には、できるだけ応じるようにしました。

グリーンロッジは乙女高原の拠点であることを痛感しました。再開を心から希望します。

乙女高原を歩こう(乙女高原自然観察会)第1回・・・・・・7月25日(日)

いい天気でした。里は35度を超える猛暑日でしたが、乙女高原は「どこ吹く風」が吹き、とても爽やか。19人の参加者がありました。今日の案内は、植物に詳しい乙女高原案内人・依田さんをお願いしました。

依田さんは、まず小さなランの花を紹介してくださいました。言われないと気づかないくらい小さくて、しかも、緑色をしている目立たないランです。

途中、ササの葉にセミが止まっているのを見つけた方がいて、とても盛り上がりました。盛夏、乙女高原を訪れると「ジーー」という低く、地味な声で鳴いているセミがいます。家に帰ってからも耳にずっと残っているこの声の主がこれです。コエゾゼミと言って、体を上下逆さまにすると、背中にマクドナルドのマークが見えます。

そこから「森のコース」を登り、ブナじいさんまで行って、ブナについての解説を聞きました。

「ブナじいさんは何歳くらいだと思いますか?」という質問からスタート。ブナの樹齢は、高さ1.3メートルのところの直径(cm)のだいたい1.5倍になるそうです。ブナじいさんのウエストがだいたい7メートルですから、直径は $\div 3.14$ で約220センチ。220 \times 1.5=330歳となります。

依田さんの解説は続きます。200~300年のブナは約40万枚の葉を付け、約8トンの水を保水するのだそうです。まさに緑のダムですね。用材としての解説もありました。昔は、ブナは狂いが生じやすく、腐りやすいことから、伐採されて他の木が植えられました。今では、音響効果を上げる最高の材質として見直され、音楽堂の天井や壁の材料として珍重されるようになったのだそうです。

草原のコースを、草花の解説を聞きながら下ってきて、ちょうど12時にロッジに戻りました。依田さんから「おみやげ」のプリントをいただき、感想を書いてもらって、ポストカードをお持ち帰りいただきました。夏の半日、乙女高原を満喫することができました。依田さん、ならびに同行してくださった案内人の皆さん、ありがとうございました。以下、参加者の感想より。

ここは むしや はなが いっぱい



で たのしいですね(小学1年)

神奈川県下の丹沢山麓の里山観察では見ることができない花に多く出会えました。その花たちを訪れるハチやチョウ。そして、アザミの総包に貼りつく沢山の虫たち。また、茎の途中で死んでいたバッタなどを撮ることができ、プリントアウトが楽しみです。依田さんのガイドは楽しく、勉強になり、特にブナじいさんのところでのレクチャーとレジメ資料、これからの観察会にとっても参考になりました。日頃の乙女高原の手入れと整備、本当にご苦労様です。

今日はブナじいさんまで行くことができ、とてもよかったです。いろいろな花を見ることができました。空気も冷たくて、夏には最高ですね。また来ます。

キンバイソウがとても色鮮やかに咲いていて、とても印象に残りました。アサギマダラを今年も見ることができて、よかったです。

暑い日に、一步林の中に踏み込むと、涼しさが心地よく、楽しい観察会でした。ヤエガワカンバ、シラカバ、ダケカンバと見比べることができ、よかったです。

乙女高原を歩こう(乙女高原自然観察会)第2回・・・8月22日

遊歩道作りで使う杭を作ろう・・・同日

今日もいい天気でした。まったくもって暑い夏です。ロッジは閉館で、雨戸は閉まっているし、まわりは草ぼうぼう。なんだか乙女高原全体がゴースタウンになったみたいで寂しいです。でも、今日は20名を超える「乙女高原ファン」が乙女高原に集結。久しぶりに乙女高原ににぎやかさが戻ってきました。

武井さんはさっそく軽トラの荷台から草刈り機を降ろして、ロッジのまわりの草刈りを自主的に始めてくださいました。雨宮さんは、温度測定用のデータロガーを入れておく百葉箱を、これも自主的に作ってきてくださいました。小さいけれど本格的で、とてもかっこいいです。ますます嬉しくなりました。

大人数で打ち合わせをしました。こんな大勢で打ち合わせをするのも久しぶりです。

午前中の観察会は2グループに分かれ、右回りと左回りでそれぞれ草原と森の遊歩道を一周すること。

途中、6人が抜けて、早昼飯を食べ、杭の材料を持ちに行くこと。

杭の上部に穴は開けないこと。

杭作りと同時進行で、遊歩道の草花の看板付けをすること。・・・などが決まりました。

受付を済ませ、さっそく自然観察会の始まりです。はじめのあいさつ、全体のスケジュール等の説明をした後、まずはロッジの前から草原の景観を見ながら、スキー場が開設されたこと、草刈りが続いていることなどを説明しました。そして、2グループに分かれて、それぞれ右回り・左回りで乙女高原を1周しながら、見られる植物を説明したり、草原のてっぺんから草刈りしないとうなるかを観てもらったり、ブナのじいさんまで行ったり、御料局三角点が無くなったことを説明したりしました。



ロッジに戻ってきて、お弁当を食べました。ところが、いくら待っても「杭の材料調達」班が戻ってこないのので、「植物の看板設置」班は出発しました。ぼくは「植物の看板設置」班の皆さんと一緒に、午前の観察会に引き続いてもう一度、草原内の遊歩道を歩きながら、見られる草花の看板を付けたり、もう花が終わってしまった看板を外したりしました。

そうこうしているうちに、ロッジの方から機械音が聞こえてきました。木を切るチェーンソーの音に違いありません。看板班の皆さんと「お、ついに始まりましたね」と話をしました。草原内の遊歩道を一周し、ロッジに戻って、さあ、杭作りを手伝うぞと思いましたが、杭作りはほとんど終わっていました。全部で74本の杭ができたそうです。太くて立派な杭です。しかも材はヒノキ。これは高級な杭です。

大勢の皆さんとお会いすることができました。中には本当に久しぶりの方もいらっしゃいました。1日フルタイムの活動だったので疲れましたが、でも、その疲れがふっとぶくらい、うれしい1日でした。

このイベントに参加して下さった松林さんが一文を寄せてくださいました。以下にご紹介します。

乙女高原自然観察会に寄せて 松林一彦

山梨県乙女高原麓、牧丘町西保下に60数年住み慣れた東京より移り住み早一年を迎えようとしています。乙女高原ファンクラブの観察会に参加させて頂き、すぐに入会申込みをし、本日が二回目の参加となりました。

ワレモコウ、ノアザミ、コウリンカ、ヒメトラノオ等多数の花に接し、また、マルハナバチの子孫の為に花粉を腰に真ん丸に抱え込み蓄える姿に暫し見入りました。あいにく富士山を眺める事は出来ませんでした。が「ブナじいさん」と周辺のブナ林は時の経つのを忘れる所でした。



休館となったロッジをバックに記念写真。杭作り参加者の皆さん

午後の杭作りも手際良く終わりましたが、乙女高原グリーンロッジへの市の対応には寂しさを抱かずにはいられません。この貴重な自然宝庫を山梨自然遺産として後世の為に守り、他県の人々にも親しまれる様、活動していきたいと思ひます。～以上～

さて、以下に観察会参加者の感想を載せさせていただきます(一部)。

ブナじいさんにまた会いに来ます。途中から参加させていただきましたが、説明を聞きながらだと、また違った

見方ができて、楽しかったです。

涼しい草原で、たくさんの花に出会えてよかったです。ブナじいさんにも会えてよかったです。でも、マツムシソウ、ヤナギランなどが少なくなっているようで残念です。また、シカが食べた跡もあって、これからが心配になりました。説明がわかりやすくて、よかったです。

ヤマハハコが小さくて、かわいかったです。ブナじいさんが大きくてびっくりしました。乙女高原っていいところだから、また、参加したいです。(小6女子)

ブナじいさんがすごく大きくて、びっくりしました。花をいっぱい知ることができてよかったです。また来たいです。(小6女子)

御料局三角点の石標が行方不明

まったくもって悲しく、信じられない「事件」が起りました。乙女高原の「富士山展望台」からさらに進むと、ダケカンバ林の中にちょっとした小高い丘があります(丘を下ると、ブナじいさんです)。この丘に「御料局 三角点」と書かれた石標がありました。

明治時代、国有林の中でも皇室の財産であった森林は、宮内庁御料局が管理し、定期的に森林の面積をはかる測量をしていました。このための基準点として設置されたものが御料局三角点でした。

山梨の場合、明治の末に大水害が相次ぎ、県民は大変苦しい生活を余儀なくされました。その原因の多くは、様々な要因による山林の荒廃でした。そこで、1911(明治44)年、明治天皇は、県下の御料地のうち16万4千haを県民の暮らしの復興のため、本県に「下賜」しました。これが県有林の基となっており、一般には恩賜林と呼ばれています。県有林(恩賜林)は山梨の県土の約三分の一を占めており、乙女高原も県有林です。

このように、この石標は乙女高原の歴史ばかりか山梨の歴史を今に伝える証人として、私たちのインタープリテーションにとって、無くてはならない存在でした。

ところが、7月上旬、この石標が紛失しているのを案内人の人が見つけてくださいました。私も現地に行って、丘の下に転がり落ちてないか1時間以上もかけて探し回りましたが、結局、見つかることはできませんでした。

心ない誰かが持ち去ったものと推測しています。この石標は、乙女高原の歴史を伝えてくれるとても大切なものです。石標(の行方)について、何か知っている方がいらしたら、ぜひ、教えてください。





マルハナバチ レポート 2010

マルハナバチ調べ隊 第2回・・・8月8日

今回もちびっこの参加が多く、にぎやかで楽しい会になりました。「おじいちゃん・おばあちゃんが孫を連れてくる」という参加パターンが増えているような気がします。どの組も、とてもいい感じでした。

いつものように、紙芝居でマルハナバチを簡単に紹介した後、「ぴったり1時間かけていつものコースを一回りしながら見られたマルハナバチを全て記録する」というラインセンス調査に出発。小学校低学年以下だと記録用紙への記入が難しいですが、どの子どもがんばって、書いていました。

結果、ミヤママルハナバチ21頭、トラマルハナバチ19頭、オオマルハナバチ7頭、計47頭でした。

天候が心配されましたので、急いでお昼を食べ、午後のまちぶせ調査を行いました。1人1人、待ち伏せする花を決めて、15分間、その花の前でじっと待ち、訪れたマルハナバチの種類と行動を記録するというものです。15分の待ち伏せ調査を2回行ってもらい、終わったら事務局にその結果を報告してもらいました。

ノハラアザミ(4人。観察時間の合計は60分)

トラ9頭、オオ0頭、ミヤマ4頭、計13頭

クガイソウ(4人。観察時間の合計は60分)

トラ5頭、オオ3頭、ミヤマ5頭、不明2頭、計15頭

ヨツバヒヨドリ(5人。観察時間の合計は75分)

トラ1頭、オオ2頭、ミヤマ15頭、計18頭

以下、参加者の感想です(一部)。

今日、じいじと山に来てよかった。理由はみんなとお昼を食べたり、ハチのことをしらべたりして、楽しかったです。また、こどもも来たいです(子ども)

マルハナバチがたくさんいて、カワイかったです。野イチゴもおいしかったです(子ども)

3種類のマルハナバチがノアザミ、ヒヨドリ、クガイ等いろんな花で蜜を吸ったり、運んだりして活発に働いていました。雨にも降られず、とても観察には絶好な日でした。

ミヤマだけ見分けられるようになりました。うれしい。トラとオオはそのたびに迷います。やはり何回も体験するしかない実感。次回が楽しみです。



マルハナバチ調べ隊 第3回・・・9月12日

いい天気。ですが、山梨市内の中学校はみんな学園祭、山梨市駅前ではフリーマーケットも行われているし・・・参加者はいるのかな？と心配になりました。ですが、5人の参加者があり、ちょっとほっとしました。

全員マルハナバチの基礎知識はある方ばかりだったので、さっそくラインセンススに出かけました。夏以上にマルハナバチが見つかりました。気になったのが、大きめのミヤママルハナバチ。みーちゃんにしてはやけに大きくて、おなかの黄色がはっきりしています。春先に見た女王はもっと大きかったので、オスではないかと思っています。

さて、ラインセンススの結果です。今年は8月(47頭)より9月(63頭)のほうがラインセンススの個体数が多かったです。2004年から始めた年3回のマルハナバチ調べ隊ですが、今までも1回だけ「8月より9月の方が多かった」という年がありました。2005年です。そして、その次の年には「爆発」といえるくらいマルハナバチの数が増えました。さて、来年のマルハナバチはやっぱり爆発的に増えるのでしょうか？

ラインセンスス調査・・・全個体数63

・トラマルハナバチ・・・ 1 内訳 シオガマギク1

・オオマルハナバチ・・・16 内訳 アキノキリンソウ7,ノハラアザミ4,タムラソウ3,シオガマギク2

・ミヤママルハナバチ・・・46 内訳 ノハラアザミ27,タムラソウ16,ヤマハギ2,アキノキリンソウ1

続けて、待ち伏せ調査も行いました。

・タムラソウ 15分間で7(内訳 ミヤマ7)

・アキノキリンソウ 30分間で6(内訳 オオ3,ミヤマ3)

・シオガマギク 20分間で3・・・内訳 オオ3

・ノハラアザミ 15分間で2(内訳 オオ2)

なんとといってもタムラソウの成績がよかったです。

シカ柵設置，その後

(文責：植原 彰)

2010年5月9日，草原内に2箇所，湿地に1箇所，シカ柵を設置しました。その後，乙女高原に行くたびに，シカ柵の内外を比較・調査しました。内外で方形枠を設置し見られた植物を調べる…といった本格的な調査は時間的にも能力的にも無理なので，内外の様子を写真にとり，気づいたことをメモするだけにしました。

草原の奥に設置した小さい方(5m四方)のシカ柵については，設置2ヶ月後の7月10日に，柵の外でタムラソウとハンゴンソウの食害が見つかったくらいで，それ以外，柵内外の差はあまり認められませんでした。

ところが，草原の入り口近くに設置した大きい方(20m四方)のシカ柵では，内外でいくつかの違いが認められました。設置して1ヶ月の6月5日にはシカ柵の外でシシウドとタムラソウの食害が見つかりました。2ヶ月後の7月10日には，柵の外でシカが歩き回っているのか，草丈が低くなっているのが見つかり，それはその後もずっと続いています。

7月25日，今度は柵の中でミズチドリというラン科の花が見つかりました。この花は乙女高原の夏を彩る花の一種ですが，2006年以降，見かけなくなっていました。4年ぶりに乙女高原で花を咲かせたことになります。

8月8日に柵内で今年初めてオミナエシの花を確認したのですが(3株)，草原内をいくら探しても1株しか見つかりませんでした。去年はオミナエシは普通に見られたと記憶しています。今年になって草原内のオミナエシは急激に減ったのですが(これもシカによる食害が原因?)，柵内では去年同様に咲いた - と考えられます。また，10月3日には柵内にはリンドウが4株も咲いたのに，草原内の歩道をいくら歩いても8株しか見つかりませんでした。



今年も勤労感謝の日(11/23)は...

乙女高原の草原を守る！ 草刈りボランティア

今年の草刈りは11回目，つまり11年目の草刈りとなります。秋の終わりに毎年大勢の乙女高原ファンの皆さんが集まり，草を刈り，運び出してくださるおかげで，温暖化による影響や増えたシカの食害はあるものの，乙女高原の美しい景観や豊かな生物多様性が「持続可能」になっています。ぜひ今年も乙女高原においでください。

詳しくは，同封のちらしを見ていただきたいのですが，ちらしには載っていない，大切な情報があります。それはキッズボランティア(子どもたちのためのプログラム)についてです。今年も去年に引き続いて，キッズボランティアとして「ブナ爺さんの根元に落ち葉のふとんをかけてあげる」という活動に取り組みます。子どもたちの参加は自由です。このプログラムに参加してもいいし，草を刈りたい子は大人と一緒に刈ってもいいこととします。また，大人の参加もオッケーです。

この大きなイベントを成功させるために，多くの「縁の下の力持ち=スタッフ」が必要です。スタッフとして運営に協力してもいいよという方は，ぜひ，ファンクラブ事務局までご連絡ください。

なお，塩平～焼山峠間の林道は通行止め。柚口～柳平(琴川ダム・乙女湖)経由で来てください。

第11回 乙女高原の草原を守る！

11月23日(火・祝) 少雨決行

荒天の場合，28日(日)

午前9:30～午後2:00

乙女高原グリーンロッジ集合

持ち物 弁当，飲物，軍手，雨具，マイおわん，マイ箸，お持ちの方はかま・なた・刈り払い機などの道具。

参加費 無料(保険には主催者で加入)

申込み(なるべく11月19日まで)等は

山梨市 観光課 0553-22-1111(代)

乙女高原ファンクラブの事務局だよ

草刈りのちらし配布にご協力いただける方は事務局まで必要枚数をお知らせください。送料は事務局負担で送付させていただきます。

草刈りスタッフとして運営にご協力いただける方も事務局までお知らせください。各係への割振りをしなければなりません。11月12日までにお知らせいただくとありがたいです。

平日ですが、11月2日(火)に山梨市主催の「焼山峠周辺・秋の観光地美化清掃」が行われます。山梨市牧丘町内諸団体等がごぞってゴミ拾いや草刈りをを行います。乙女高原ファンクラブの分担は乙女高原周辺。9時に焼山駐車場に集合です。市で昼食を用意してくださることになっており、事前に参加人数の把握が必要です。ご参加いただける方は、10月20日までにファンクラブ事務局までお知らせください。雨の場合は、11月10日(水)に延期するそうです。

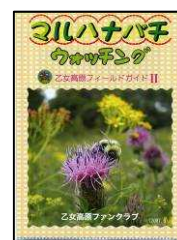


乙女高原ファンクラブ

乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原インタープリテーションのテキスト 『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』
(A4判186ページ)乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。1冊1000円、送料は一冊につき80円。欲しい方は郵便振込で一冊につき1080円分を送金してください。

マルハナバチの観察と調査のおともに 『マルハナバチ ウォッチング』
(A3判両面カラー)マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。欲しい方は事務局までご連絡ください。



春から夏にかけて咲く草花のガイド 『乙女高原のお花たち』
(A3判両面カラー)乙女高原フィールドガイドの第1号。春から秋にかけて咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈の表示や草花を一言で表したコメントが「分かりやすい」と評判です。今年リニューアルしました。欲しい方は事務局までご連絡ください。



乙女高原ファンクラブの普通会員になりませんか？

乙女高原ファンクラブの会員には普通会員とサポーター会員の2種類があります。会報(ニュースレター)は年4回発行予定です。4月は全会員に送っていますが、あとの3号は普通会員にしか送りません。乙女高原での活動を多くの方に知ってもらいたいので、できるだけ普通会員での入会をお勧めください。また、現時点でサポーター会員の方も普通会員への移行をお勧めします。会員が増えることで、乙女高原を守るファンクラブの発言力も強くなります。

乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」と、入会のご意志を事務局まで届けてください。だされば、いつでも、だれでも会員になれます。ファックス、メール、手紙が確実です。
- ・入会金も年会費もありません。
- ・普通会員には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会員には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。
- ・そして・・・、乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。

乙女高原ファンクラブへの連絡先

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3
TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp
会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。
WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

郵便振込 (番号)0220-8-71093(加入者名)乙女高原ファンクラブ